

<総括>

出題数 現代文2題

試験時間 80分

大問一 マックス・ウェーバーの考えをもとに、政治的な中立性が持つ危うさを論じた評論からの出題。全体の記述量が大きく減り、昨年出題のなかった客観問題が出題された。本文の具体例を参考に、自分で適切な具体例を挙げて説明する問題が出題された。文章の読解力だけではなく、思考力・判断力・表現力などが問われる問題であった。

大問二 美学がはらむ問題と可能性について論じた評論からの出題。文章が長く、馴染みの薄い議論が展開される点で読み解くのに骨を折った受験生が多かったかもしれない。全体の記述量は昨年とほぼ変わらない。

<本文分析>

大問番号	一	二
出典 (作者)	『中立とは何か マックス・ウェーバー「価値自由」から考える現代日本』朝日新聞出版(野口雅弘)	『美学のプラクティス』水声社(星野太)
頻出度合 ・的中等	なし	なし
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約4500字→約3640字	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2600字→約4420字
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	問1	記述	標準	傍線部の具体例を本文中から抜き出す。空欄を補充する引用文を選択肢から答える。前後の文脈を踏まえて説明する。傍線部の内容を本文全体の論旨を踏まえて説明する。解答に必要なポイントを過不足なく読み取るのが難しい。本文の論旨を踏まえながら、傍線部を含む段落の内容を中心にまとめる。具体例を一つ挙げ、傍線部の内容を説明する。具体例を自分で考える問題は昨年は大問二で出題されていた。
		問2	客観	標準	
		問3	論述	標準	
		問4	論述	やや難	
		問5	論述	やや難	
		問6	論述	やや難	
二	評論	問1	論述	標準	傍線部の前後の内容を踏まえて説明する。「パラドクス」の語義を踏まえ、本文の内容に沿って説明する。傍線部と関連する段落の内容を踏まえて説明する。傍線部の内容を本文全体の論旨を踏まえて説明する。解答に必要なポイントを過不足なく読み取るのが難しい。傍線部を含む段落の内容を踏まえて説明する。傍線部と関連する段落の内容を踏まえて説明する。
		問2	論述	やや難	
		問3	論述	標準	
		問4	論述	やや難	
		問5	論述	標準	
		問6	論述	標準	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

評論だけでなく、柔らかなめの随筆なども読んでおくとよい。
書き取りは出ないが、読解の基礎なので対策を講じておこう。
長大な論述に慣れておく。
日頃から、読んだ文章を自分に関わりあるものとして理解を深めるようにしよう。